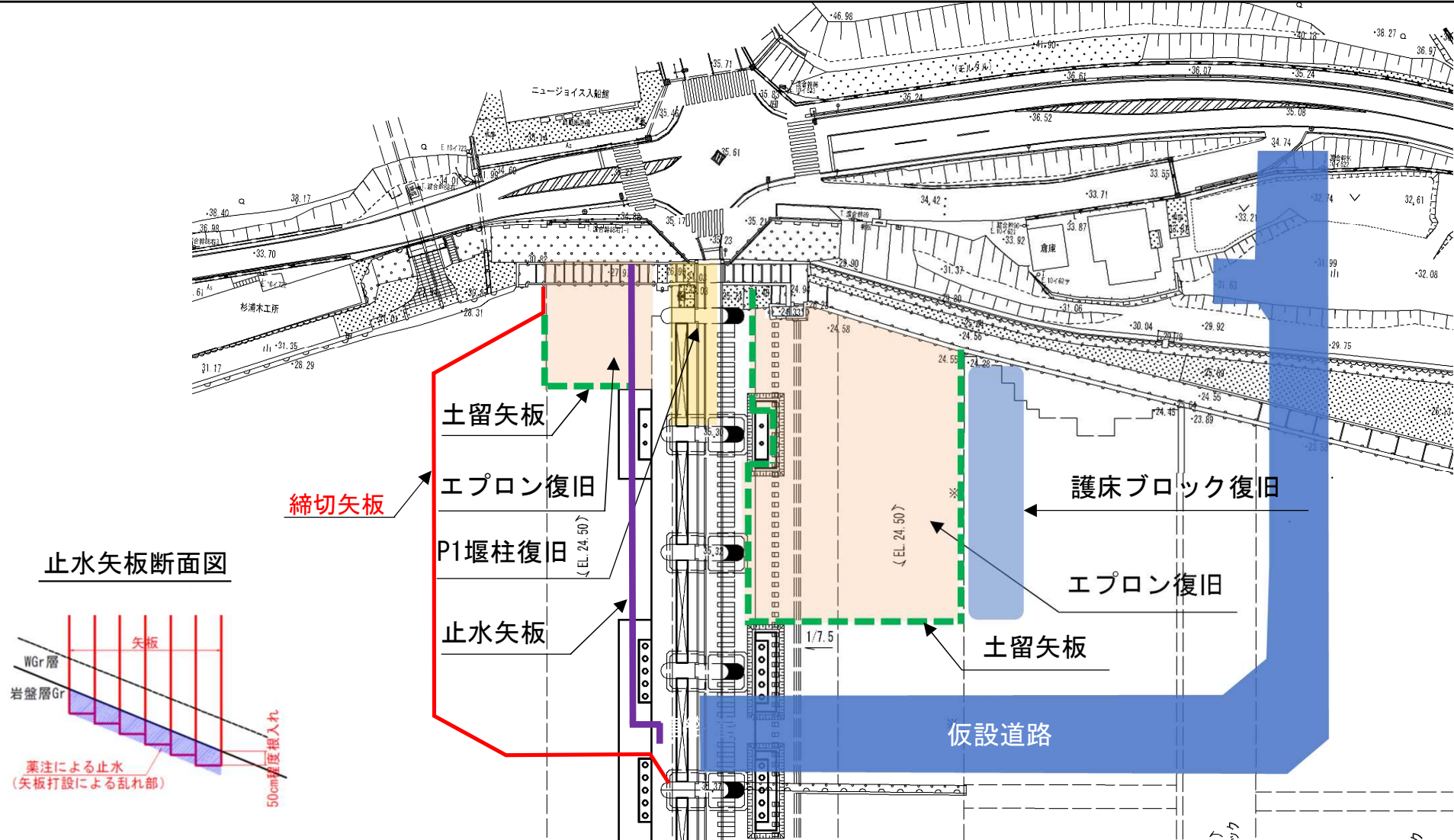


本復旧に係る対策工法及び ロードマップ（案）

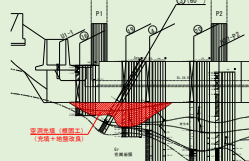
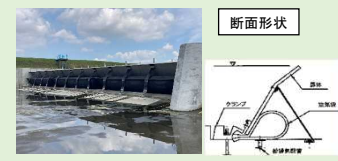
本復旧に係る対策工法の基本方針

本復旧のポイント

- 止水矢板を堰上流（左岸魚道からP4堰柱まで）に施工。
- 上下流エプロン、護床工及び上流魚道を撤去・復旧。
- P1堰柱の復旧方法は、P1堰柱の上下流を開削した後、目視確認して判断。



本復旧に係る対策工法の基本方針

項 目	ゲート構造現状案		ゲート構造変更案		
	P1堰柱 再構築案	P1堰柱 基礎補強案	鋼製起伏堰案	ゴム堰案	SR合成起伏堰案
概要図					
共通事項	○水みちが判明している上流・下流エプロン及び護床工は撤去し、基礎造成、再構築 ○堰上流及び下流エプロン端に新たに止水矢板を打設				
【基礎】					
対策概要	○空洞範囲を撤去した上で良質土等により再構築し、P1堰柱及び洪水吐き堰体を現況と同じ形状で再構築	○グラウト等の充填材で空洞を充填	○空洞範囲を撤去した上で良質土等により再構築し、それぞれの堰構造に応じた基礎に構造変更して復旧 ○管理橋橋脚としてP2堰柱や左岸擁壁の構造の見直しが必要		
【ゲート】					
耐久性	○耐用年数40年		○耐用年数40年	○耐用年数30年	○耐用年数30年
管理	○現状と同様の操作管理が可能		○引上げ式ゲートよりは破損の可能性が高い ○操作管理の変更が必要 ○水位調節が今より困難もしくは不可能（ゴム堰）		
【工期・経済性】					
工 期	3 期工事 仮締切 3 回	2 期工事 仮締切 2 回	3 期工事 仮締切 3 回		
経済性 (P1堰柱再構築案を1.0とした場合の割合)	1. 0	0. 5	0. 9		
【総合評価】	○ （既存のゲート及び巻上機が使用可能であれば安価となる。）		△		

3

